

古河歴史見聞録

半谷三郎と福田敬二 企画展「古河一高と古河の文学」から

「半谷三郎先生」「福田敬二先生」といっても、聞き覚えのある方はもういらっしゃらないかもしれません。

かつて、古河一高の英語教員で、作家としても高い評価を受けた二人の人物がいました。今回は、その二人について、企画展「古河一高と古河の文学」をちょっとのぞいてみます。

モダンズム詩の先駆者

半谷三郎(本名・悌三郎)は明治35年福島県生まれ。早稲田大学高等師範部を卒業後、大正15年に古河商業学校(現古河一高)に英語教師として赴任しました。

大学時代から詩への興味と思索を深め、昭和3年には詩集『発足』を出版。その後、安西冬衛、北川冬彦、三好達治、西脇順三郎



▲半谷三郎 (1902~1944)

らとともに新詩運動に加わり、旧来の叙情詩や当時台頭してきたダダイズム、シュールレアリスムの詩などを批判し、新しい詩の創造を提唱した独自の詩論を各雑誌に発表。それらの集大成として昭和9年に出版した『現実主義詩論』は、北川冬彦から「私たちの『詩への自覚時代』に現れた、最も誠実な詩探求の報告書」と絶賛されました。

在職中は英語と商業美術を担当。校章のデザインをしたり、詩の朗読を授業に取り入れたり、また、自前のドイツ製カメラで校内行事の記録に活躍するなど、実直ながらユニークな存在だったといわれています。ちなみに、昭和天皇即位の御大典を記念して昭和3年に制定された古河商業の校歌は、半谷が作詞を担当しました。

洒落なマルチ作家
一方の福田敬二は、明治43年生まれ。鎌倉学園、一橋大学を卒業後教員となり、古河一高で英語を担当します。



▲福田敬二 (1910~1986)

昭和29年、古河地方の詩文学誌『詩群』に第6号より参加し「福田鶏耳」のペンネームで俳句・短歌作品を多数発表しました。

その後「福田鯉二」の筆名で推理小説も手掛けるようになり、昭和36年には『宝石 新人25人集』に「抒情の殺人」が選集されています。教員退職後は筆名を「福田鯉二」に変えて時代小説に転向。昭和46年には「水戸の落日」が第2回小説サンデー毎日新人賞の候補に挙げられ、48年「宿場と女」で同賞を受賞、選考委員の川口松太郎をして「新人賞の傑作」と言わしめました。

小説家としては決して多作とはいえなかったものの、新人賞後の第一作「歳月無情」が「小説サンデー毎日」昭和48年12月号に、また「吉原田圃はおぼろ月」が52年

新春特大号に掲載されています。洒落な性格と豊富な語彙力を駆使し、さまざまな文学ジャンルでマルチに活躍した福田は「昭和の戯作者」とも評されました。

古河一高と古河の文学

この二人のほかにも、卒業生に芸術選奨詩人・粕谷栄市、江戸川乱歩賞作家・小林久三らを擁し、また、地元の文芸活動の中心者を多数輩出するなど、古河一高を抜きに古河の文学は語れません。

企画展では、半谷・福田両人の資料を中心に、古河一高関係者とその文学活動を紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

古河文学館学芸員 秋澤正之



▲古河一高・文芸部誌「一高文芸」

【児童書/動物】 いきもの口図鑑

長谷川真理子 監修
食べる、息をする、くわえて物を運ぶ…。生き物の口のいろいろな役割を、全部で52種の生き物ごとに、イラストを交えてやさしく解説。自由研究に役立つ、生き物調査のやり方も紹介します。生き物用語集付き。
出版社…インプレス

【絵本】

止めなくちゃ! 気候変動
ニール・レイトン 作/絵
地球上の全ての生き物に関わる気候変動について、ユーモラスなイラストと語りかけるような文章で分かりやすく解説。この問題を解決するための取り組みや子どもたちが今できるアイデアも紹介する。
出版社…ひさかたチャイルド

図書館の本棚から



中央公民館

【一般書/伝記】

漫画でざっくりわかる渋沢栄一
英賀千尋 漫画
新しい1万円札の肖像に選ばれた実業家・渋沢栄一。若かりし頃の躍動感あふれるユニークなエピソードを中心に、その人生を漫画で紹介する。時代背景がわかるコラムも掲載。
出版社…ビジネス教育出版社

【一般書/小説】

星のように離れて雨のように散った
島本理生 著
幼い頃に失踪した父、書きかけの小説、宮沢賢治の「銀河鉄道之夜」。大学院生の春は、父との記憶を掘り起こすうちに、現在の自分の心の形が浮き彫りになっていき…。「私」をめぐる旅の物語。『別冊文藝春秋』掲載を単行本化。
出版社…文藝春秋



宇宙飛行士を目指して

霜田依吹さん 総和中学校3年生

僕の夢は宇宙飛行士になることです。小さい頃、母とよく図書館に行き、宇宙の本をたくさん読みました。その時、僕は「僕も宇宙に行きたい!」と思い、宇宙飛行士を目指すようになりました。もともと僕は勉強をすることが苦手でした。したがって「無理かもしれない」と、思い悩むこともありました。

しかし、母はそんな僕に宇宙についての本をたくさん買ってくれました。そして「立派な夢だね、頑張ろうよ!」と言ってくれました。そのおかげで僕は、自分の夢に自信を持てるようになりました。

この先どんな事が起きても、自信を持って、一歩ずつ前に進み、立派な宇宙飛行士になりたいです。



わたしの夢